

(資料 12)

東大阪市長 野田義和 様

抗 議 文

ドイツ・ミッテ区長への書簡を直ちに撤回し、
日本軍「慰安婦」問題の歴史と女性の人権問題に向き合うことを求めます！

野田市長が、昨年9月にベルリン市ミッテ区に建立された平和の少女像の撤去を求める書簡(11月4日付)をミッテ区長宛に送付されてから半年が経ちました。姉妹都市関係を盾にして撤去圧力をかけられたことに、私たちは驚きと怒りを持ち、この間二度にわたって公開書簡と要請書を送っています。しかし、市長からはいまだに誠意ある回答をいただけていません。本来ならば直接申し入れに伺いたいところですが、コロナ感染拡大が日に日に深刻化する折り、あらためて抗議文を送らせていただくことにしました。

私たちは前回12月に送った要請書で、市長の「慰安婦」問題に対する認識、なぜ撤去を要求されたのか、今後この問題がどう解決されるべきとお考えか等について質問をしましたが、回答は「慰安婦問題は国家間の問題と認識しております」という一言のみでした。市民の声を蔑ろにする、あまりにも不誠実な回答に唖然としています。

重ねてお尋ねします。「慰安婦」問題は「国家間の問題」とお考えにもかかわらず、姉妹都市ではありませんが、一地方都市の首長の野田市長が、なぜあえてミッテ区長宛てに撤去圧力の書簡を送られたのでしょうか。そこまでの行動をするにあたっての、平和の少女像や「慰安婦」問題に対する野田市長のお考えを、具体的にお聞かせください。

日本政府が「慰安婦」像や少女像の設置について、外交方針として圧力をかけ続けていることは周知の事実です。しかし、「慰安婦」問題の本質は女性の人権問題なのです。女性に対する性暴力や、公人による女性差別・蔑視発言が後を絶たず、ジェンダー・ギャップ指数世界120位という数字が示すように、女性の人権は日本政府と社会にとって喫緊の重要課題です。東大阪市にとっても、同様ではないでしょうか。その首長が、女性への性暴力や戦争がない平和な社会を願う市民らが建てた少女像を撤去するよう求めることは、的外れで非難されるべき行為です。そもそも、姉妹都市の議会において厳格な手続きを経て建てられた像に対して撤去を求める等、どれほど非常識な行為でしょうか。さらに、市長としての対応を問われると「国家間の問題」として言い逃れようとして向き合わない姿勢は、あまりにも恥知らずと言わざるを得ません。

その後、日本政府や姉妹都市の圧力によって撤去の危機に見舞われた少女像は「永久設置」されることが、ミッテ区議会で決議されています。各党が連携して市民の声を尊重した判断をくだした結果です。地方自治権とは、国の追従をするのではなく、こうあるべきではないでしょうか。野田市長には、このような姉妹都市と積極的に連携し、日本政府の一方的な撤去圧力と外交方針を糾されることを求めます。

現在、ドイツ・ドレスデンの国立民俗博物館では、二体の「少女像」を含めた「慰安婦」問題の展示等の「言葉にできないー大きな声の沈黙」展が開催されています。これに対しても日本政府の圧力とともに右派勢力の露骨な妨害や脅迫のメールがミッテ区役所や博物館に送られているとのことで、まったく恥ずべき行為です。

野田市長に、直ちに書簡を撤回し、女性の人権問題に向き合うよう求めます！

2021年5月19日

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク
〒540-00 大阪市中央区内淡路町 1-3-11
シティコープ上町 402 号
TEL 090(8383)4197